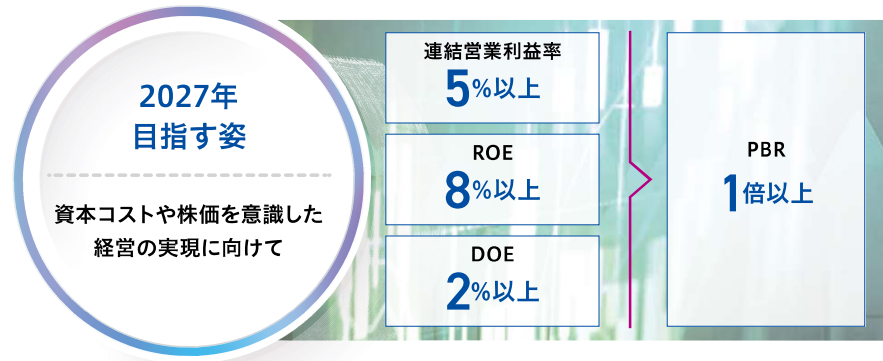


資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

現状分析による課題を踏まえ、プロジェクトZの諸施策を着実に進めるとともに、IR活動・ESG取り組み強化により、2027年までにPBR1倍以上の実現を目指します。



PBR、ROE、PERの経年変化（現状分析）

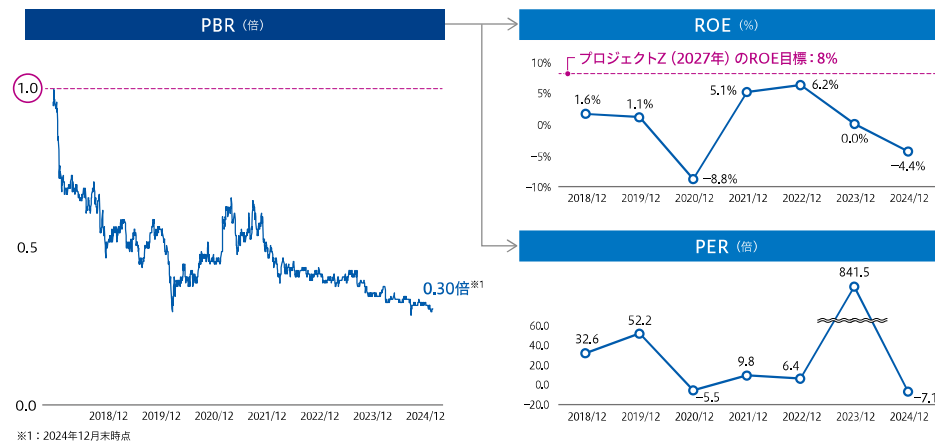
当社のPBRは1倍を下回る水準が継続しており、2024年12月末時点で0.30倍に留まっています。PBRの構成要素であるROEとPERに分解し、それぞれの項目について「同業他社との経年比較」および「当社と接点のある投資家からの意見収集」等を通じ、その要因を整理しました。

① ROE

ROEの経年変化から、プロジェクトZの目標数値である8%に届かず、その要因は、当期純利益率と総資産回転率の低さにあると整理しました。当期純利益率は製品ごとの利益率や販管費率、総資産回転率は在庫量や設備稼働率等が原因と考えています。なお、日頃接点のある機関投資家が把握する当社株主資本コストの水準は概ね8%程度と認識しています。

② PER

PERは、2020年以降10倍に満たない水準が続き、その要因は、成長性や強み・収益性等の情報開示不足や、計画と実績の乖離等が原因と捉えています。



主な分析結果と改善の方向性

現状分析の観点	主な分析結果	改善の方向性
PBR	ROE	収益力
	ROE	資産効率性
	ROE	資本戦略（財務レバレッジ含む）
PER	成長期待	成長に向けたキャッシュアロケーション
	情報開示／対話	IR活動・ESG取り組み強化
	資本コスト	IR活動・ESG取り組み強化

PBR改善に向けて

1 | 収益性改善

プロジェクトZによる抜本的構造改革と成長戦略で売上総利益率と販管費率をそれぞれ改善させ、収益性改善を果たします。

> P21～24

2 | 資産効率化

生産拠点の再編やハードルレートの厳格運用による設備稼働率の改善とSCMの最適化による棚卸資産の圧縮で資産効率化を図ります。

> P27～30

3 | 成長に向けたキャッシュアロケーション

収益性改善、資産効率化を進めて、営業キャッシュ・フローを創出し、構造改革・成長投資、株主還元、そして、有利子負債の削減へつなげます。

4 | IR活動・ESG取り組み強化

対話・情報開示の拡充によるIR活動の強化とガバナンス体制の強化などによるESGへの取り組みを強化します。

> P71～84